

## 脇田和と佐藤忠良 一子どもへのまなざしー



佐藤忠良《おおきなかぶ》1962年刊  
宮城県美術館蔵



脇田和《おだんごばん》1966年刊  
脇田美術館蔵  
ー「脇田和と佐藤忠良一子どもへのまなざしー」よりー

### ■ 特別陳列 加賀藩前田家の名刀

一天下五剣の名宝「大典太光世」が石川にー【前田育徳会尊經閣文庫分館】

### ■ 国宝《剣 銘 吉光》と《刀絵図》【古美術】

### ■ 幾何学文様のデザイン【近現代工芸】

### ■ 優品選【近現代絵画・彫刻】

- 企画展Topics 特別展 能登が育んだ作家たち
- 令和6年度土曜講座のお知らせ（前期分）
- 館内での写真撮影について・新音声ガイドシステムについて
- 学芸室こぼれ話
- 5月の行事予定
- 今年度の目玉

企画展(第7・8・9展示室)

# 脇田和と佐藤忠良 一子どもへのまなざし

主催/石川県立美術館 特別協力/宮城県美術館、北國新聞社

後援/NHK金沢放送局、MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送

4月24日(水)～5月26日(日) 会期中無休

第1章 子どもへのまなざし 絵本原画とともに

脇田和と佐藤忠良の交友は、芸術の純粹性を唱えた1936年設立の新制作派協会(現・新制作協会)という作家集団結成より始まり、終生自らの芸術を追求し続ける仲間でした。

脇田は、子どもをテーマとした絵画作品を多数制作しており、佐藤もまた、自身の子どもや孫など、身近な人をモチーフとした人間への愛情が伝わる彫刻作品を繰り返し制作しました。彼らの子どもへのまなざしは、愛情に溢れた真摯な制作姿勢の現れたもので、両作家に共通する部分として作品が提示してくれることでしょう。

また脇田と佐藤は絵本画家としても活躍し、その力量を発揮した絵本の作品もお楽しみください。

第2章 脇田和と佐藤忠良の世界

この章では、脇田の創作の歩みをたどりながら、佐藤の代表的な作品を紹介しつつ、2人の関わりについても紹介します。

脇田は、ドイツ留学時代に確かな素描力を身につけ、子どもや鳥など愛するものを描いています。その制作姿勢は、対象を絞り込んでじっくりと向き合う、飽くなき探求を続けたものです。油彩はじめ素描、版画の多彩な画業をご覧いただけます。また、佐藤は戦後の具象彫刻に欠くべからざる存在で、その作品は写実を通して生きた人間を表現することに徹したものです。日本人の手で初めて日本人を表現したと高く評価された『群馬の人』や、現代的な人間像の表現の分野を開いた『ボタン(大)』などの作品をご紹介します。

関連行事

■土曜講座

5月11日(土) 13時30分～15時

「脇田和・佐藤忠良の絵本の仕事」  
講師：深山千尋(当館学芸員)

5月18日(土) 13時30分～15時

「彫刻家・佐藤忠良について」  
講師：日置樹也(当館学芸員)

会場：石川県立美術館 講義室

\*聴講無料・申込不要

■ギャラリートーク

日時：5月5日(日)、12日(日)、19日(日)、26日(日)

各日13時30分～14時30分

\*要観覧料・申込不要

石川県立図書館との連携事業

■司書による読み聞かせ会

内容：『おだんごばん』『おおきななごぶ』ほか

①日時：5月5日(日)、11日(土)、19日(日)、

25日(土) 各日11時30分～12時

会場：石川県立美術館 2階VRシアター

②日時：5月12日(日)、26日(日)

各日10時30分～11時

会場：石川県立図書館こどもエリア

\*いずれの会場も参加無料・申込不要

■関連ミニ展示「脇田和と佐藤忠良が手がけた絵本たち」

会期：2月1日(木)～6月2日(日)

会場：石川県立図書館4階リング西側



脇田和《鳥の来る道》1986年



佐藤忠良《ボタン(大)》1967-69年  
宮城県美術館蔵

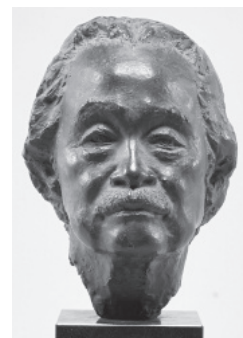
# 特別陳列 加賀藩前田家の名刀

一天下五剣の名宝「大典太光世」が石川に一

4月21日(日)～5月26日(日) 会期中無休

## 学芸員の眼

佐藤忠良にとつての脇田和は、終生、新制作協会での活動を共にした先輩ということとどまらない存在でした。佐藤が脇田について語った文章は、複数あります。その中で、1939年の新制作派協会に彫刻部が創設された頃の20代の佐藤が、「脇田さんの絵と僕の彫刻を交換してほしい」と脇田に語ったこと。また、脇田のドイツ時代に形成された厳格な素描力への驚きや、そこから生まれる絵本や挿絵の仕事に佐藤が影響を受けている様子などが、「脇田芸術への憧憬」という言葉で綴られています。今回の展覧会では、佐藤が「こっそりと展覧会で求めた」脇田作品や、佐藤が最晩年に脇田和をモデルとして制作した肖像彫刻《脇田さん》など、2人の関わりを示す作品も紹介します。



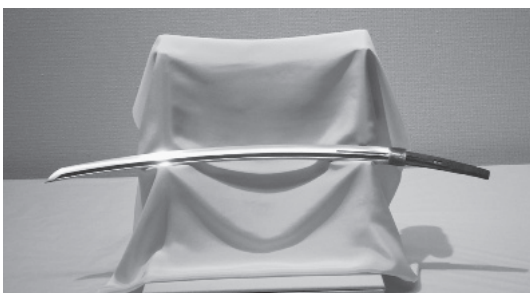
佐藤忠良《脇田さん》1933-34年  
脇田美術館蔵

前田育徳会尊經閣文庫分館に国宝《太刀 銘 光世作(名物大典太)》が展示されるのは、「前田育徳会展 示室 開館記念名宝展」以来40年ぶりとなります。当時まで駆け出した筆者は、もちろん「大典太」に触れることなど許されませんでした。展示の様子は間近で見させていただきました。展示室に「大典太」が到着したのは、国宝《賢愚経残卷(大聖武)》や重要文化財《アエネアス物語毛綴壁掛》などの配置を終えた後でした。

刀掛に「大典太」が置かれた時に、展示室の空気が一変したの言うまでもありません。それは単に名刀が展示されたからではなく、何か神秘的な働きによるものであることは理解できました。そして、2015年に北陸新幹線の金沢開業を記念して開催された企画展「加賀前田家 百万石の名宝」では、補助的に「大典太」に触れることが許されました。その時主体的に扱った方が、神様みたいなものだ」と言われたことに深く同感しました。

そして今回、ようやく一人で「大典太」を展示することが許されました。展示室の照明には制約がありますが、事前に試行錯誤を重ね、過去2回以上に良くご覧いただけるのではないかと思います。また大規模な地震も想定して、安定性への配慮から通常の太刀の置き方ではなく、刃を上に向けて展示しています。

「大典太」ははじめ前田家の名刀は、その伝来から前田家の家格と、徳川家に対する立ち位置を雄弁に物語っています。それはまた、文武二道の精神から江戸幕府に文化力で挑んだ前田家の、生存戦略の象徴ともなっています。



国宝《太刀 銘 光世作(名物大典太)》

# 幾何学文様のデザイン

4月21日(日)~5月26日(日)

6月1日(土)~6月23日(日) 会期中無休

幾何学文様は点や線で構成された文様のことで、これらを組み合わせることで、無数の表現が可能になります。展示では、「幾何学文様のデザイン」、「連続文様」、「線の表現」、「幾何学のかたち」の4つのパートから紹介しています。今回の美術館日よりでは、「線の表現」に注目していきます。

金岡宗幸《砂張水指「海原」》は、銅に錫などを加えた砂張という合金を用いて作られた水指で、砂張独特の黒く上品な光沢を放っています。ここで注目したいのが水指の表面にめぐっている線模様です。この線は、金岡が研究を重ねて開発した、「砂張糸目鑄造」によって生み出されたもので、本作では直線に近いものから波線までを、太さや間隔を変えながら施

しています。作品の下部を見てみると、緩やかな波線が3本1組で広い間隔をあげながらめぐり、作品の胴中央部に向かって線は直線に近くなり、配列の間隔が狭くなっています。そして胴から上部にかけては線模様が広い空間が現れます。ここで、本作のタイトルに目を向けると「海原」。遠くに見える水平線から近景の波を、線とその間隔を利用して、遠近感のある表現としており、水指という小さな茶道具でありながらも、広大な海を感じることができる作品となっています。

1本の線をいくつも組み合わせることによって生まれた海原の風景。ゆっくりご堪能ください。



金岡宗幸《砂張水指「海原」》

# 国宝《剣 銘 吉光》と《刀絵図》

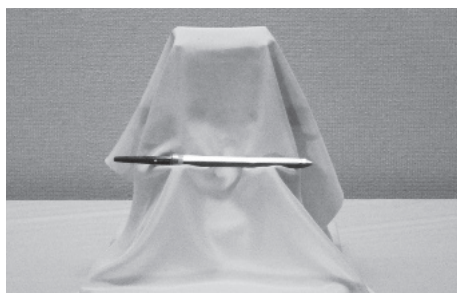
4月21日(日)~5月26日(日) 会期中無休

今回は、前田育徳会尊經閣文庫分館の特別陳列「加賀藩前田家の名刀」に合わせて、加賀藩5代藩主・前田綱紀が白山比咩神社に奉納した国宝《剣 銘 吉光》と、加賀藩祖・前田利家が仕えた豊臣秀吉の蔵刀を収録した重要美術品《刀絵図》(本阿弥光徳作)を展示しています。国宝《剣 銘 吉光》は毎年展示していますが、今回は初めて下からも光を当て、両鑄造に着目しています。

前田家は、徳川家との緊張関係における生存戦略として文化に注力し、江戸幕府に挑みました。当館が常設展示している国宝《色絵雄香炉》(野々村仁清作)や古九谷の優品は、その代表的な所産ということが出来ます。そしてこれらの作品は、名刀が展示されると、その凛とした佇まいが際立つように思います。そ

こで今回は名刀のみならず、幕府に向けられた「美の刃」としての性格を持つ古九谷もあわせて、文武二道に立脚した加賀文化の本質を再認識いただきたいと思えます。

江戸時代に武家が主導した文化は、明治時代以降、地域の人々の好尚にも大きな影響を与えました。「太閤御物」として名声の高い名刀を収録した、重要美術品《刀絵図》が「旦那衆文化」によって金沢に伝来したように、前田家が醸成した文化風土が求心力となって、様々な歴史的名品が当地に集まりました。その中の重要な作品の多くが、寄贈という形で当館のコレクションの中核になっていることも、地域に根ざした美術館の特質であるということができそうです。



国宝《剣 銘 吉光》白山比咩神社蔵



本年1月1日、石川県を、いえ日本中を揺るがした能登半島地震。その爪痕はいまだ深く、多くの人たちが不自由な生活を強いられています。先般も天皇皇后両陛下が、膝をついて避難者を見舞われている姿が報道されたことは、記憶に新しいところです。

能登地方の文化財を守る取り組みとして、国立文化財機構・文化財防災センターによるレスキュー活動も本格化していますが、美術・工芸の創作の現場や作家たちは、創作活動もままならない状況が続いています。本展はそのような能登に、美術館としてまず美術作品を通して元気を送りたい、との思いから開催する展覧会です。

本展では第1章に能登出身の作家たちの作品を、第2章に能登の魅力ある姿を表現した作品を選びました。「能登はやさしや」の口承にもみる、厳しい気候風土や、豊かな自然、そして歴史文化に培われてきた人情味など、能登が持つ魅力を味わっていただきたいと思えます。

今回は、当館の所蔵の絵画、彫刻、工芸などを中心に、本展の趣旨にご賛同いただいた北國新聞社や金沢以南の美術館・博物館が所蔵する美術・工芸作品も、「甦れ！能登」の思い一つでご出品いただきました。

「私たちは、能登を決して忘れない」そんな思いを、本展を通して新たにさせていただきたいと思えます。



松下久信《早春の福浦港》

日本画分野は「街並みを愛でる」と題した小テーマ展示ですが、その多くは「旅人の眼」で捉え、描かれた風景です。その街に暮らさず訪れた人だから感じることができる魅力もあります。その他、背景装置として描かれた街なみや、そこに暮らす人々の歴史、生活を留めた作品など、魅力ある街並みをご覧ください。

第3展示室、油彩画分野からは、吉田富士夫《催眠術(袋)》をご紹介します。道化師や手品師、催眠術師などをテーマに描いた作者。本作は「催眠術」と題したシリーズの一つです。中央に横たわる人物を取り囲み、のぞき込む様子を描きます。奇妙な雰囲気さえ漂う画面に目を奪われてしまいそうです。

彫刻分野からは、石田康夫《面影》をご紹介します。本作は「面影」というタイトルではありますが、誰か特定の人物を指すのではなく、作者の中にあるイメージを形にしたものであるといえます。女性像を中心に制作した作者の、彫刻への真摯な取り組みの積み重ねの先に生まれた作品だと言えるでしょう。

素描、版画分野では企画展関連として、脇田和の素描、版画作品を紹介します。人物や鳥が自在な略筆やデフォルメにもかかわらず、脇田の作品ではごく自然な印象をみる人に与えます。これは、ドイツ時代に培われたデッサン力によるものです。その精緻なドイツ時代のデッサンは、企画展でご覧いただけますので、併せてご鑑賞ください。



吉田富士夫《催眠術(袋)》

# 令和6年度土曜講座のお知らせ(前期分)

令和6年度土曜講座を5月より開講します。開催中の展覧会に関連したテーマや、当館学芸員が日ごろ研究しているテーマで行う講座です。5月～10月までを前期、11月以降を後期とし実施します。時間は毎回午後1時30分より3時まで。事前申し込み不要、聴講無料です。お気軽にご参加ください。※都合により内容を変更、または中止する場合があります。最新情報は当館公式ウェブサイトでご確認ください。

月/日	テーマ	担当
5月11日	脇田和・佐藤忠良の絵本の仕事	深山千尋
5月18日	彫刻家・佐藤忠良について	日置樹也
5月25日	3度の大典太展示に関わって	村瀬博春
6月15日	古九谷とは何であったのか	村瀬博春
9月21日	「いきもの発見！」スライドトーク こども目線のお話も交えながら	西ゆう子
9月28日	龍の文様と工芸	奈良竜一
10月19日	街並みの絵画史(1)	前多武志

## 館内での写真撮影について

2024年6月1日(土)より2階コレクション展示室の所蔵作品に限り、来館者の皆様に撮影をしていただけます。心に残った作品を、写真におさめてみてはいかがでしょうか。

### 注意事項

- ・撮影禁止マークのない作品に限りです。
- ・前田育徳会尊經閣文庫分館は撮影できません。
- ・フラッシュ・三脚・自撮り棒等の使用はできません。
- ・動画の撮影はできません。
- ・他のお客様の鑑賞の妨げにならないようご配慮ください。
- ・ご利用は利用者の責任においてお願いします。(当館は責任を負いません。)
- ・撮影した作品の写真は私的使用に限りです。
- ・撮影した写真に他のお客様が写っている場合、肖像権に触れる場合があります。

## 新音声ガイドシステムについて

2024年6月1日(土)より音声ガイドが手持ちのスマートフォンでもご利用いただけます！

コレクション展の音声ガイドと解説が、スマートフォンでもご利用いただけるようになります。(音声読み上げをご利用の場合は、イヤホンをご持参ください。) 使い方は簡単！コレクション展示エリア内に設置されたQRコードを読み取るだけ！今回の展示でご利用いただける作品一覧が表示されますので、該当する作品を選んでください。

アプリのダウンロードは必要ありません。ぜひご利用ください！

## 学芸室「こぼれ話が始まります！」

前年度まで「学芸室の人々」と題して、学芸員によるリレー連載をおこなってまいりましたが、今年度は「学芸室こぼれ話」にリニューアルして連載を継続します！

当館学芸室の大ベテランから若手まで、展覧会の裏話や苦労話、心に残るエピソードなどを語っていただく予定です。初回は谷口副館長による国宝《百済観音》(奈良・法隆寺)特別公開時のこぼれ話です。

### 谷口 出(副館長)「百済観音がやってきた！」

平成9年「フランスにおける日本年」の目玉として、ルーブル美術館で法隆寺の百済観音が公開されました。帰国後、東京を振り出しに全国5会場で里帰り文化財指定百周年を記念し特別公開が行われ、名古屋・仙台・福岡とともに石川県立美術館が選ばれました。画期的なことでした。

像高209センチ、免震台を組み込んだケースは420センチの高さで展示室内に収まらず、やむなく1階のロビーに設置しました。外部と遮蔽するため、およそ10メートルの高さのガラスをすべて黒のシートで覆いました。五色の幕でお堂のような雰囲気作りもしました。

幕で覆ったガラスの外、連日夜を徹して車中警備したことが思い出されます。



## 5月の行事予定

企画展 「脇田和と佐藤忠良―子どもへのまなざし―」関連行事	
5日(日)	■石川県立図書館司書による出張読み聞かせ会 いずれも11時30分〜12時 美術館2階VRシアター 参加無料 申込不要
11日(土)	
19日(日)	
25日(土)	■ギャラリートーク いずれも13時30分〜14時30分 企画展示室 要観覧料 申込不要
5日(日)	■土曜講座 13時30分〜15時 美術館講義室 無料
12日(日)	
19日(日)	
26日(日)	
11日(土)	「脇田和・佐藤忠良の絵本の仕事」 普及課長 深山 千尋
18日(土)	「彫刻家・佐藤忠良について」 学芸員 日置 樹也
25日(土)	「3度の大典太展示に関わって」 修復工房担当課長 村瀬 博春

# 今年度の目玉

令和6年度の石川県立美術館にご注目ください！



重要文化財《如意輪観音坐像》  
平安時代（9～10世紀） 奈良国立博物館蔵

企画展では、春に開催の「脇田和と佐藤忠良―子どもへのまなざし―」（4月24日～5月26日）に始まり、「能登が育んだ作家たち」（6月1日～23日）、「まると奈良博―奈良国立博物館至高の仏教美術コレクション―」（以下まると奈良博）、「食を彩る工芸」を開催。特別陳列では現在開催中の「加賀前田家の名刀―天下五剣の名宝「大典太光世」が石川に―」（5月26日）を始め、コレクション展示室も見ごたえ十分です。

2本の大型企画展を紹介します。まず今夏開催の「まると奈良博」（7月6日～8月25日）は、昨秋大きな反響があった「三の丸尚蔵館収蔵品展」に匹敵する規模の展覧会です。2021年に奈良国立博物館にて開催され、これまでの仏教美術展とは一線を画し話題となった、「奈良博三昧」展をベースとし、「わかりやすく、親しみやすい仏教美術」が基本コンセプト。「仏教美術の殿堂」奈良国立博物館のコレクションから、国宝8件、重要文化財93件を含む200件超が出陳されます。同館の130年の歴史の中で質・量ともに、これだけの文化財が門外にできることは初めてです。

秋季企画展は「食を彩る工芸」と題し、石川県の食を軸に据えて、工芸作品を紹介する展覧会を開催します（11月9日～12月8日）。今回の展示は2部構成で、第1部は食にまつわる様々な風景を作品と資料で紹介します。美術館や博物館の所蔵品に加え、かつて県内の料亭で使われ、大切に伝えられてきた器や道具類を併せて展示します。第2部は現在活躍中の工芸作家の新作を取り合わせ、石川の新しい食を提案します。

今年度も当館の展覧会にご期待ください。

## 次回の展覧会

令和6年6月1日(土)  
～6月23日(日)  
会期中無休

	前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
	歴代藩主の甲冑・ 陣羽織と加賀象嵌鏡 I	古九谷と再興九谷
第5展示室	第3・4・6展示室	企画展示室
幾何学文様のデザイン	優品選 【近現代絵画・彫刻】	特別展 能登が育んだ作家たち

## ご利用案内

コレクション展観覧料  
一般 370円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金  
5月6日は第1月曜により  
コレクション展示室無料の日

開館時間  
午前9:30～午後6:00  
カフェ営業時間  
午前10:00～午後6:00

5月の休館日は  
27日(月)～31日(金)

石川県立美術館だより  
第487号(毎月発行)  
2024年5月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策交付金を活用して運営しています。

創業30年余の五木屋本舗で不動のナンバー1  
まさだやこ!? のような食感と風味 ご飯のお供にピッタリな豆腐のみそ漬

人気No.1 100g/ 710円 (税込) 広告  
全国一律 3個以上のご注文で 送料無料!!

※3個未満の場合、830円～2,300円の送料がかかります(税込・クール料金込)

お申し込みはお電話で ●受付時間9:00～17:00(日曜・年末年始 休)

石川の味噌漬を日本の食卓へ

有限会社 五木屋本舗  
〒668-0203 熊本県球磨郡五木村西635-3

050-1868-6979